

MD Anderson Cancer Center の形成外科チーム見学

昭和大学江東豊洲病院 形成外科

草野太郎

はじめまして。昭和大学の形成外科に所属しております草野と申します。この度は MD Anderson Cancer Center(以下 MDA)の上野直人教授、また昭和大学の中村清吾教授のお導きにより 2019 年 3 月 4 日から 3 月 15 日までの期間、MDA の形成外科チームを見学させていただきました。お二人の先生に感謝申し上げます。貴重な経験ができるチャンスを与えていただき本当にありがとうございます。

《 はじめてのヒューストン 》

ヒューストンまでは ANA で直行便がありとても便利だと感じましたが、12～13 時間のフライトは短いとは言えず、今回 7 ヶ月になる娘を同行していたため特に気を使いました。ラッキーなことに往復とも座席前に装着するバシネットというゆりかごを使えたことは随分ありがたかったです。

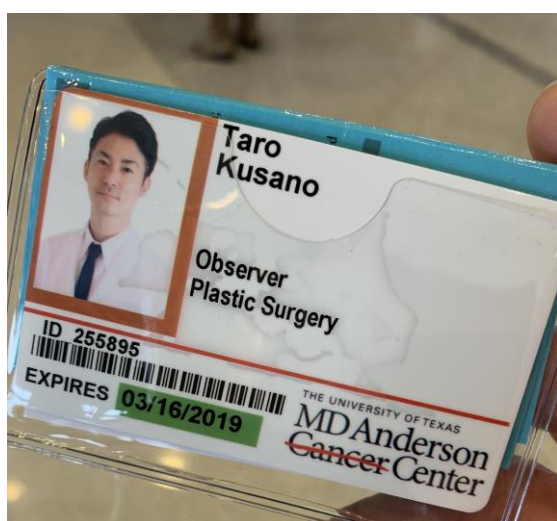
屋久島と同じ緯度だということで油断していたら、かなりの寒波が来ていて着いたら極寒！真冬の寒さで驚きました。すぐに GAP に行って上着を買いました。2 週間どこで生活するか。赤ん坊がいるのですごく悩みましたが、今回私が選択したのは「民泊」でした。Air bnb でアパートの 1 室を借りましたが、キッチン、大型冷蔵庫、洗濯機、そして親切な家主の Charlie さんが色々面倒を見てくれて、快適に過ごすことができました。一人で借りる場合でもとても良いと思います。



2 週間お世話になった 819 West Main Street のアパート

《 はじめての TEXAS MEDICAL CENTER と MDA 》

月並みな表現ですが、なんて大きな施設なんだ、、、。本当に驚きました。初日は ID を発行してもらっただけでしたが、これがまたとても大変でした。事前準備をかなりしていったつもりでしたが、いくつかの部署をまわされて大変でした。また、パスポートを宿泊先に置いてきたため「無いと発行できない」と言われましたが、妻が宿泊先のアパートにいたため情報を送ってもらい、なんとか ID を発行してもらいました。（2週間しかいないので1日も無駄にできないと交渉しました！）



あとで上野教授に「半日で発行されたらまだマシな方です」とお伺いし、納得しました。

ようやく ID を手に入れた後は形成外科の秘書、Nancy さんにお会いして病院の案内と形成外科の見学の手引きを受けました。病院が大きすぎるため翌日からオペ室にたどり着けるか不安になりましたが、新しいことを経験できる喜びの方が上回っていました。

初日のミッションを終え、夕方は上野教授に食事に誘っていただきました。

「Tony Mandola's Gulf Coast Kitchen」上野教授は長く通っていらっしゃるお店だそうです。なかなか日本ではお目にかかれない、旬のザリガニをいただきました。ごちそうさまでした！診療をしながら学会活動や執筆活動、ご講演などに加え、学生さんたちの面倒までみておられ、上野教授は本当にお忙しい方だと実感しました。



上野教授と見学の学生さん達とともに



ザリガニのラビオリ

《 形成外科チームについて 》

ここからは実際の研修で感じたことです。

Chair manの Charles E. Butler 以下 21名の faculty の先生が所属しておられ、そのほとんどの方が micro surgery に精通したドクターであるということに驚きました。また9名の fellow の先生方がいて、すでに遊離皮弁の手術をかなりこなせるようになっていて、教育が行き届いていることも感じました。



faculty の先生方。オフィスの入り口にかっこよく写真が並んでいる。

《 Mentor の Dr. Edward Chang 》

私の mentor は Dr. Edward Chang でした。彼は生粋の micro surgeon です。乳房再建に DIEP flap や PAP flap を用い、また下顎骨の再建には free fibula flap を用いた再建を行なっていました。Free fibula flap は事前のシミュレーションにより作成された mandible plate やガイドプレートを用いて正確な手術を行うこともやっていました。また LVA も数多くやっており、各地からリンパ浮腫の患者さんも多く彼の外来を訪ねてきておりました。同世代の先生が第一線でバリバリ仕事をされていることに強く刺激を受けました。



mentor の Dr. Edward Chang と

《 Robotic surgery について》

MDA では DIEP flap(腹部穿通枝皮弁)を Da Vinci で行うという画期的な方法を取り入れていました。最大のメリットは腹直筋の筋膜切開を最小限にするというものです。Dr. Jesse C. Selber による同手術を 2 週間の間に 2 度も見学することができましたが、いずれも見事なコントロールで、ロボット操作後に小さ

い創から血管束がツルツルっと出てきた際にはオペ室内で毎回歓声が上がっていました。

《 Physicians Assistant (以下 PA) について 》

この制度は MD Anderson に限ったものではなくアメリカの制度ではありますが、PA の存在は医師の仕事の効率化を図る上で大きく貢献しているとわかりました。どこまでの権限が実際に与えられているか明確なところはわかりかねますが医師の監督下であれば手術も投薬も行なって良いということになれば、自分の分身が一人増えるようなものです。コストの問題はあるにせよ、作業効率はおそらく2倍以上に増え年間に関わることのできる患者さんの数も圧倒的に増えると思います。

《 同時に来ていた見学者について 》

レバノンから1名、中国から2名の見学者が来ておりました。彼らは1ヶ月程度の滞在ということでした。各国の形成外科の事情を知ることができまし、仲間がいることで気持ちも安心できました。また情報を共有することで無駄のない見学ができたと思います。



《 Houston の観光 》

ちょうど Rodeo の季節だということで、上野先生やほかの先生方にも勧められたため行ってみました。Rodeo の興行は数週間 Houston に滞在し、その後また地方を転々とするとのことでした。まさに Houston に滞在している間に Rodeo がきているなんて、とてもラッキーでした。Rodeo って馬にまたがって振り落とされないようにすることだけなのかなと思っていたら、日替わりで色々な有名アーティストが出演したり、たくさんのフードコートや出店などもあったりと、大きなお祭りの会場のようになっていて地元の方たちでとても盛り上がっていました。



そしてせっかく Houston に来たので少し足を伸ばして NASA に行きました。人気のトラムツアーで施設見学をすると、有名なサターンVという大きなロケットを見ることができましたし、実際に月面着陸を成し遂げた人類の英知の結晶がここにあるかと思うと、心が騒ぎました。



短い滞在でありあまり多くの観光はできなかつたのですが、MD Anderson の近くにある Hermann Park は近くてすぐに行ける憩いの場で、公園内には Houston zoo もあり週末を過ごすにとっても良いところでした。



《 2 週間 observer のススメ 》

2 週間の Clinical Observership を終えて感じたことは、まず純粹にとってもよかったということです。私は 44 歳で留学経験がなく憧れがありましたが、すでに多くの患者さんとおつきあいがあるため長期留学は難しい状況でした。

しかしながら 2 週間程度は比較的時間を取りやすい、病院の雰囲気を感じたり手術の見学をするには十分、またお金もそこまでかからない、家族も連れて行きやすい、などメリットは多いと思いました。個人的には妻と 7 ヶ月の赤ん坊とともに海外でのアパート自炊生活をこなしたことも半分以上のウエイトを占めるくらい良い経験になりました。

日本に持ち帰れてすぐに明日から使える知識としては、手術の時の **position** が挙げられます。挿管したら頭を 180 度回転して頭側に何も無い状態を作り、オペレーターがたくさん立てる **space** を確保する **position** は、簡単なことなのに思いつきもしなかった発想で驚きました。2 週間で行われた手術件数は 135 件。乳房再建が 68 件、頭頸部が 23 件、その他 44 件で、顕微鏡を用いるマイクロサージャリーは 28 件でした。まさに **High Volume Center** としてふさわしい数字だったことを記録しておきます。

世界一のセンターを見学できて知見が広がり明日からの診療にもまた意欲が湧いてきました。今後も乳がん患者さんのお役に立てるよう努力します。

